

晴天の心



月次祭 7月19日(日) 午前11時～

婦人会例会 7月9日(木) 午前10時～

「タ立」

今年の梅雨は、梅雨らしくないような思います。台風の通過に併せて雨が降り梅雨入りした大阪ですが、それ以降あまり振っていないように思います。入道雲を見ることはあっても遠い奈良や和歌山などの山間部で降っているようですね。

梅雨となると毎日しとしとジメジメといった感じの止まない雨に困るというものなのでしょうが、どうも今年は局所的に大雨になる傾向が強い。

突然のタ立のような大粒の雨が降ってくる。びっくりするような雨量に戸惑う。もっとも最近では、スマホのアプリなどである程度事前にわかることが多いのですが、まああくまでも予想なので外れることもままありますね。降らない予想だったのに降られることもあり、振り回されることも。とにかく雨もまた神の恵み。うまく気持ちを切り替えて楽しもうじゃありませんか。

...

先日、草刈りをしているとき、急に機械が動かなくなりました。エンジンを止めて確かめると、何かビニールの糸のようなものが絡みついているようです。

草だけを刈っているつもりでも、草むらに落ちている袋や紐などが時々、草刈り機の動きを止めることがあります。いつもはすぐに動きだすのですが、今回は、回転刃の芯にビニール繊維が巻きついているようで、全く動く気配がありません。なんとか糸口を探すのですが、見つけたと思った糸口も切れていたり、ほかの部分に絡みついていたいたりして、結局、刃を外して取り替えることになりました。

「人間の心を以てするから、纏れ纏れて持ちも提げもならないようになる」

絡み合い、纏れ合った糸は、端々に顔を出した糸先や小さな纏れを直すだけでは解きほぐせません。人の心や思いがすれ違う場合も、幾重にも積み重なると、纏れを解くことは難しくな

今日の
おやのことば



「人間の心を以てするから」
皆さしづする。これまで人間の心を以てするから、纏れ纏れて持ちも提げもならないようになる。

ります。目先の事柄だけを考えると、解決の糸口と思われたものが、逆に問題を複雑にすることもあるのです。

こんなときには一度、人間思案を離れて、親神様の思召に心を向けてみることです。すべての出来事は、親神様の親心の現れであるという真実を心の底に感じるとき、これまで気づかなかった解決の糸口が、自然と見えてくるのではないのでしょうか。(岡)

．．．

【見出し・状況】 前川菊太郎副会長選定の願

【本指図】

さあ／＼尋ねる処／＼、まあ／＼どんな談示どんな事情、日々それ／＼心に掛かり、心使い、よう／＼分かり話し合う処、尋ねた一条ちゃんと皆戻らんという精神を定めて尋ねたら、こういう諭しは初めてする。会議々々と言うて働いても／＼、用いて貰わねば、働き損のようなもの。世界の道は実を働くで、鮮やか鏡やしきの理も立つ。これまでの処は、何をしたんやらというようになれば、理の持て行き所は無い。こういう話は初めて聞くであら。これより始め掛けた理に基づき、今までの人間の心を以てするから、神の理が欠ける。薄うなりてからはどうもならん。こんな事情初めやで。始め掛けたら治めにゃならん。まあ／＼一つこれもこうせにゃならまいか、と思うやない。

皆さしづする。これまで人間の心を以てするから、纏れ纏れて持ちも提げもならんようになる。

これから始め掛ける。筆に留め／＼。筆に留めたら、その理に定めにゃならん。夜も寝られん程会議をしても、用いねばどうもならん。纏れ／＼の理はどうも受け取れん。受け取れんから困る日がある。取り返やす事出けんようになりたらどうもならん。未だ／＼だんだんない／＼と人間の義理を持つからどうもならん。これまで席と定めだん／＼話伝えたる。何程留めても理が治まらねば受け取られん。不承々々の理は受け取れん。よう聞き分け。この者一人放って置けん。担い柱控え柱と言え、皆一時以てこうせにゃならんと思う処、今一時に聞いて、諭する事は一寸に出来ん。又々句を見て話し、句が来たなら刻限という。刻限は句を外さんための刻限。刻限の話皆伝えて筆に留めてある。なれど、皆外し／＼て来た。筆に記しあっても、これは一寸こうして置こうと言うようではどうもならん。ならんからこういう事になる。刻限以ての話、さしづ用いねば、尋ねは要らんもの。今までの処過ぎたる話、取り返やしはならん。何でも彼でも救けにゃならん、救からにゃならん。なれど、救からんというはどういうもの。よう聞き分け。これまで長い道中という。どうしよう知らんというような日もありた。さしづこれなら違うまいと、これまでの刻限調べば、成程こうという理も分かるやろ。これ分からねばならん。これから話す。よう聞き分け。みんなそれ／＼皆まちまちの事情改めて、一時を以て掛かれども言い難くい／＼。なれど、要らんともし難くい。刻限を以て諭そう。刻限何時とも分からん。筆に留めた理より頼りにさえすれば、何も言う事は無い。なれど、刻限のさしづ、ぐる／＼巻いて置いて納い、紙の色の変わる程放って置いてはどうもならん。そこで、これまでにも遠慮気兼は要らんと伝えたる。遠慮気兼は理の集まらん種である。夜々費やした処が何にもならん。これよう聞いて置け。

．．．

原典であるおふでさき、おさしづの根幹がここにまとめられています。

特におさしづは、当時の先生方が本当に何でも尋ねて指図を受けておられる。

またそれに対して本席様を通して的確におさしづで神様が答えられているのだが、その指図されたことを、尋ねたにもかかわらず、そんなこと今できないとか、神様が言われるから不承不承ながら従ったりしてもそれは何にもならない。ということがしつかり書かれている。おさしづの一部だけを読むだけでは見えないが、こうして、紐解くといかに神様が、人を助けたい一心で答えられていたのかが、伝わってくる。

＜2次元コードでこのおさしづ全文が読めます。





「松下政経塾」一行が天理研修 – 親里往来 塾主ゆかりの地を訪ねて

松下電気器具製作所（現・パナソニック HD）創業者である故・松下幸之助氏が設立した「公益財団法人松下幸之助記念志財団 松下政経塾」の一行3人が5月15日、研修のため来訪した。

松下政経塾は昭和54年、幸之助氏が新たな国家経営を推進する指導者の育成を目的に設立。4年間の実習や研修を経て、多くの卒塾生が政治家や会社経営者として社会の第一線で活躍している。

今回の研修は、第47期の塾生2人が塾主・幸之助氏の考え方を学ぶ一環として同塾が実施したもの。

幸之助氏は昭和7年、教祖50年祭に向けて「昭和普請」が進められているさなかの親里を初訪問。万余の信者が手弁当でひのきしんに勤しむ姿に深い感銘を受けたとされる。この訪問を契機に、氏は経営の「真の使命を知る」に至ったとして、同年を「命知元年」と定め、経営方針や組織を刷新した。

この天理研修では、現在、経営者を対象に「松下幸之助『命知』の源流をたどる」ツアーを親里で実施中の「(株)キャンパスサポート天理」（松本泰歳代表）が、塾関係者の要請を受けて引率・案内した。

当日、一行は幸之助氏の自叙伝『私の行き方 考え方』の記述や往時の写真をもとに、親里の様子や氏の印象などを紹介する動画を、道友社おやさと書店で視聴した。

続いてスタッフの案内で、本部神殿、教祖殿、祖霊殿を約1時間かけて巡覧した後、天理図書館を見学（写真）。94年前に幸之助氏が見聞したことを“追体験”した。

塾生の一人、佐藤勝一さんは、「『人のために尽くす』という天理教の教えは、国民のための政治を目指すうえで大切な考え方だと感じた。塾主ゆかりの地で得た知見を今後に生かしたい」と話した。



訃報 ニューヨークセンター所長

福井陽一さん（64歳・南紀大・富原分教会ニューヨーク富中布教所長）5月25日出直された。伝道庁主事、ニューヨーク天理文化協会主任のほか、在ニューヨーク日本領事館海外安全対策連絡協議会委員を務めた。アメリカ伝道庁。

福井君とは天理高校の同窓生。北海道出身で、北寮での最初の部屋が一緒だった。人当たりが柔らかく温和な性格だったと記憶している。25日LINEグループで危篤の連絡が入って、多くの同窓がお願い勤めを各々の場所で行った。出直しの報は翌日の朝LINEで知らされた。それぞれが願った真実は、神様が受け取られた。それは彼の御霊にも届く。彼のことがきっかけとなって同窓会を開催しようという話が、LINEで交わされた。

連絡手法の変化

前述の記述でも LINE で知ったことを書きましたが、連絡を取り合う方法は以前とずいぶん様変わりしたように思います。

それこそ高校時代、寮には 1 階に公衆電話（カード式じゃない）が、あって急用だった場合しか使わなかった。働き出して公衆電話が ISDN 対応のテレホンカードが使えるようになってデータ通信にも使えるようになり、パソコン通信という連絡方法ができていく。

当時は、パソコンかワープロ専用機かなんて比較もあった。

自動車電話というリッチなものには縁がなかったが、PHS や携帯電話が普及していき、ショートメールなどが、少しづつ普及していく。

最初は電話だけの機能だった携帯電話が、WEB 対応となりインターネットを閲覧できるようになると、インターネットを使った連絡方法が広がっていく。

写メという言葉は写真をメールで送るという言葉が、誰でも使うようになり、スマートフォンが登場すると、最初は従来の携帯電話と同じような使われ方だったものが、機能の向上や画面の大きさが大きくなりカメラの性能も向上、手のひらサイズのパソコンとなっていくと、いつの間にかないと困るものとなり、手元にないと触っていないと不安になるというような依存症が発生している。

とても便利な道具として進化していった連絡をとるには欠かせないものになった。

しかし、中毒的な状態となっている人も多いように思われる。歩きスマホ、スマホを見ながらの運転（車や自転車など）、通勤電車内で以前は新聞や本を読んでいた風景はなくなり多くの人はスマホの画面を見ている。レストランで食事をしている時でもそうならないだろうか？ そこまでして見て知った情報は本当に必要なものだったのだろうか？

私は基本的にスマホの各種通知は切っている。SNS やメールで何か書かれてもすぐに知る必要性を感じないからだ。道具は使うものであって、その機能に振り回されるのは、使われてしまっていて、本末転倒である。スマホは電話なのだから至急であれば電話をかければいい。そう考えている。もし、運転中などで会話ができなかったとしてもメッセージを残すことで、都合のいい時に連絡することができる。

即時連絡を返さないと怒る人がいるらしい、それは、相手の貴重な時間を使っているという意識がない人だと思う。自分が熱中し集中しているとき、自分にとって大切な時間に横やりを入れる行為があった場合どう感じるのかを、考えることができないのだろう。

連絡を取り合うための手段や道具は、素晴らしく変化していった、昔、電話を掛けるとき、相手に迷惑が掛からない時間かどうかを配慮してかけていたのではないだろうか？

LINE やメールであっても、相手に配慮することを忘れてはいけないと思うのです。

・ ・ ・

美しい雨の名前

作詞・作曲:さだまさし 編曲:渡辺俊幸

美しい雨の名前を思いつかなくて ばんやり雨を見ていたら不意に虹が架かった

ラインやメールではなくて生きた言葉が聞きたい

胸が熱くなるような人に巡り会いたい 高いビルとビルとビルの谷間で

瘦せた空を見上げていたら 自分が誰かも分からなくなるんだね

スマホじゃなくて僕の目をじっと見つめて話す 君の目の中に綺麗な虹が架かっていた

美しい雨の名前を見つけた

美しい空の名前を思いつかなくて 毎日夜空を見上げて星を探していた

綺麗な満月横切って旅客機が過ぎてゆく

掌の中の支配者の電源を切っちゃえ 迷う僕と僕と僕の狭間で

瘦せた心が悲鳴上げてる 新しい星座見つける旅に出よう

君の笑顔を引き抜ける自由な風の音 君の目の中に初めて見る星が光っていた

美しい空の名前を見つけた

